



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98.10.30 No.4870

11.8へ99年結成20周年を一大攻勢の年に! 根こそぎ動員で国鉄闘争の土台築こう!

怒りを忘れるな!

十一・八全国労働者総決起集会は、正念場を迎えている国鉄闘争を勝利へと押し上げるか否かをかけた“決戦”ともいうべき大結集闘争である。

動労千葉の根こそぎ結集の力と五〇〇〇名の決意が、がっちり結び合ったとき、一〇四七

99年、「分割・民営化」に決着をつけよう!

われわれは、決して忘れない。「分割・民営化」強行によつて、二〇万人の仲間が国鉄職場を追われ、七六〇〇人が清算事業団に送り込まれ、一〇四七名がその清算事業団からさえ解雇された。この過程で二〇〇人もの仲間が自殺に追い込まれ、革マルを先兵とした、ありとあらゆる不当労働行為、差別支配が「国鉄改革法」の名のもとに加えられてきた。

この仕打ちを絶対に忘れてはならない。仲間の悔しさは、わが悔しさだ。必ず決着をつける。来年九九年は、動労千葉結成二〇周年である。これを節目に、当局・JR総連革マルに対する一大反転攻勢に猛然と立ちあが



ろうではないか。『11・8』はその勝利の土台を築く闘いである。

労働者の怒りは極点に! 今こそ闘う者の大同団結を!

五月十五日、旧国鉄債務処理法案が強行可決された。「分割・民営化」の破綻をまたまた国鉄労働者と「国民」に押しつけるというのである。

この法案は、五・二八反動判決と同質である。つまり、大失業時代の到来—資本主義の終わりの始まりという時代の到来の中で、政府支配階級は何ひとつ勝負が無い中、国鉄闘争の最後の解体に踏み込んだということである。

だが、この新たな攻撃は、敵にとつても両刃の刃である。激しい労働者の反撃を不可避としているのである。すでに「国鉄債務処理法案」に対し、「国民負担を許すな」「政府・当局は、分割・民営化失敗の責任をとれ」という怒りは高まっている。そ

して『5・28』反動判決に対し、労働運動の再生を願う膨大な労働者が連合支配を打ち破り、“弾劾”の声を発している。それは、労働法制度の改悪に対しても同様である。

こうした新たなたたかいは、まりは、日本支配階級を足元から揺るがす存在へと、力強く成長することは間違いない。

『11・8』こそ、闘う労働者の大同団結への“出陣”である。『11・8』の大結集の力は、国労本部指導部の動揺と屈服路線をも乗り越え、国鉄闘争勝利の展望を大きく切り開くのである。

『11・8』に根こそぎ結集を実現し、99年、国鉄闘争勝利の土台を築きあげよう。

たたかう労働組合の全国ネットワークをつくろう!

11・8全国労働者総決起集会

●11月8日(日) 正午

●東京・日比谷野外音楽堂

【指定列車】 第一陣 千葉駅7番線 10時34分
第二陣 千葉駅8番線 12時26分

